

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立狭山緑陽高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	<p>二部制総合学科高等学校の特性を踏まえ、学校として目指す方向が簡潔に示されている学校像である。生徒の実態や学校の現状に応じた適切なものであり、「多様な個性をみがき」「自立した社会人に育てる」という文言で学校の方針を示し、生徒・保護者・地域など期待に十分応えるものとなっている。</p>	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	<p>重点化が図られて三つに整理され、学校が目指すところが示されている。やや漠然とした目標となっているので、開校10年の転換期に当たって、将来を見据えた更に明確かつ具体的な内容にすることが望まれる。</p>	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	<p>学校全体のシートに基づいて独自の工夫を加えた分掌・年次・教科のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。学校自己評価システムが組織的かつ適切に運営されており、学校関係者や生徒の意見などがうまく活用されている。</p>	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	<p>新設された「授業づくり委員会」を中心にして組織的・計画的な取組が進められている。新たな方策が策定されているが、達成状況が確認しにくいものがあるので、生徒の変容などに着目した評価指標を活用するとともに、方策と指標の連鎖をより明確にして取組を検証することが望まれる。</p>	
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	<p>校長は組織力を高め、学校自己評価システムを生かした学校経営に取り組もうとしている。校長的的確なリーダーシップの下、開校10年目に当たり改めて教職員が共通理解を深め、課題の解決に向けて、学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。</p>	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	<p>アンケートなどを実施し、結果を分析して学校自己評価のための情報が収集されている。アンケート項目が総花的になっているので、目的を絞って実施するとともに結果を更に丁寧に分析して達成状況や課題を把握し、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。</p>	
特記事項			